

テーマ：栄光の王の前に相応しい礼拝を捧げる

▶ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデルとジョージ2世

「『全能の主なる神が君臨される』そんな力強い言葉を含む『ハレルヤ・コーラス』が歌われた時、思いがけないことが起こった。ジョージ2世が自ら立ち上がり、敬意を示されたのだ。すると、観客も一斉にそれに倣った。そして、彼らは天におられる偉大なお方、地上の王を含め、全てのものを支配されている真の王を覚えながらコーラスの間、ずっと立ち続けたのだ。それ以来、今日に至るまで『ハレルヤ・コーラス』の部分では常に起立することが慣習となっている。」

「クリスチャンの神に対する信頼と礼拝を捧げようとする本能は、神の偉大さを知ることによって、非常に力強く掻き立てられる。しかし、今日のクリスチャンには、この知識がほとんど欠けている。そして、それが私たちの信仰が弱く、礼拝が力強さに欠けていることの、一つの理由なのである。」(J.I. パッカー)

●歴史的背景？：オベデ・エドムの家からエルサレムへと契約の箱が運ばれる (cf. 2 サムエル記 6:12-17)  
 (「…ダビデは行って、喜びをもって神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ運び上った。」6:12)

○栄光の王とはだれか：三つの姿

1. 栄光の王は全てを\_\_\_\_\_お方 (1-2)

※詩篇 50:10-12

「森のすべての獣は、わたしのもの、千の丘の家畜らも。わたしは、山の鳥も残らず知っている。野に群がるものもわたしのものだ。わたしはたとひ飢えても、あなたに告げない。世界とそれに満ちるものはわたしのものだから。」

※ダニエル 4:30,31-32

「この大バビロンは、私の権力によって、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が建てたものではないか。」 「…ネブカデネザル王。あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、こうして七つの時があなたの上を過ぎ、ついに、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。」

※ネヘミヤ 9:6-7

「ただ、あなただけが主です。あなたは天と、天の天と、その万象、地とその上のすべてのもの、海とその中のすべてのものを造り、そのすべてを生かしておられます。そして、天の軍勢はあなたを伏し拝んでおります。あなたこそ神である主です。」

※ヨブ 42:2

「あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。」

2. 栄光の王は\_\_\_\_\_お方 (3-6)

●聖なる神の前に立てる者：四つの条件(4)

a) 手がきよい者

※イザヤ 1:15-16

「あなたがたが手を差し伸べて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを増し加えても、聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。洗え。身をきよめよ。わたしの前で、あなたがたの悪を取り除け。悪事を働くのをやめよ。」

b) 心がきよらかな者

※マタイ 23:25-26

「わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。」

c) たましいをむなしいことに向けない者

「むなしい偶像」(cf. 詩篇 31:6; ヨナ 2:8)

「どんな時であろうと、私たちが自分の幸せや満足、安心を手にするために、神様以外の何かを望み、神様以上に何かを恐れ、神様ではない何かに信頼を置くのであれば、それは偽りの神を礼拝していることに他なりません。」(ケン・サンデ)

d) 欺き誓わなかった者

※詩篇 15:4

「…損になっても、立てた誓いは変えない。」

-----  
※2 コリント 5:21

「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。」

※ヘブル 10:19-22

「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。また、私たちに、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。」

「聖徒は救いを必要とし、神から義を受けます。祝福は、救い主である神からの恵みです。聖徒は与えるものとしてではなく、受ける者として主の山に登ります。自分自身の功德ではなく、受けた義を身につけているのです。」(チャールズ・スポルジョン)

### 3. 栄光の王は全てに\_\_\_\_\_お方(7-10)

※マタイ 26:53-54

「わたしが父をお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思っているのですか。だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖書が、どうして実現されましょう。」

※黙示録 19:11-16

「また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、「忠実また真実」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされる。その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があって、ご自身のほかだれも知らない名が書かれていた。その方は血に染まった衣を着ていて、その名は「神のことば」と呼ばれた。天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布を着て、白い馬に乗って彼につき従った。この方の口からは諸国の民を打つために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。その着物にも、ももにも、「王の王、主の主」という名が書かれていた。」

### ○まとめ